

「何か」はきっとできる」キャンペーン

## クリスマスまでに、3000人の チャイルド・スポンサーを募集しています

今、あなたにできる

# 5

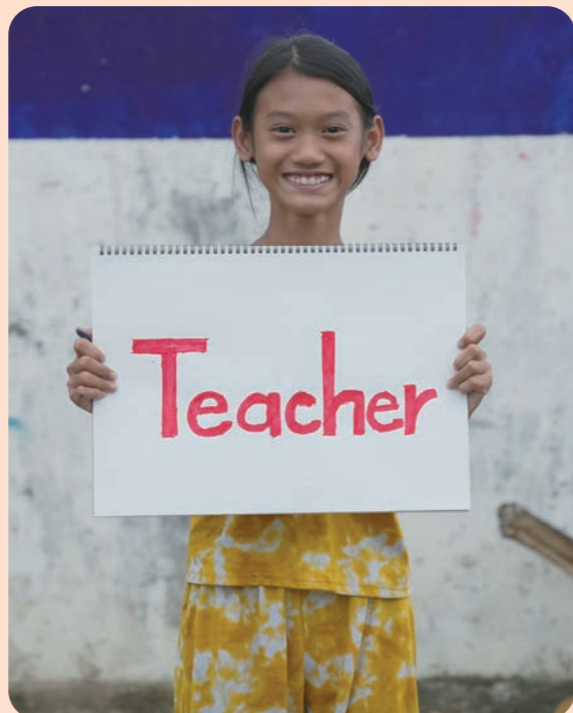
つのこと

参加方法は  
こちら▶



### 1 チャイルド・スポンサーになる

貧困に苦しむ子どもたちの数は、新たに1億人増加したと推定されています（UNICEF2021）。チャイルド・スポンサーシップは、子どもたちが未来を夢見て健やかに成長できるように、子どもが住む地域全体を継続して支援するプログラムです。新しくチャイルド・スポンサーになってくださる方、もう一人分のご支援を追加くださる方からのご連絡もお待ちしております。



### 2 クリスマス募金に協力する

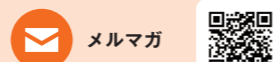
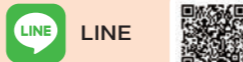
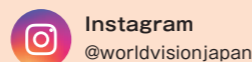
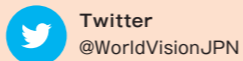
紛争や災害、気候変動の影響を受ける子どもたちに、今日の命をつなぐ水や食糧を届けるための募金にご協力ください。

### 3 お友だちに紹介する

あなたの周りにも、支援に興味がありながら「何から始めていいかわからない」という方がいらっしゃるのではないのでしょうか。ぜひお友だちにご紹介ください。

### 4 SNSで応援する

公式SNSでは、世界の子どもたちをとりまく情報を毎日発信。あなたの「いいね！」や「シェア」も大きな力になります！



### 5 クリスマス募金箱を使って募金に協力しよう

世界の子どもたちに「よころび」を贈る24日間のアドベント

「クリスマス募金箱」とは、クリスマスを待ち望む12月1～24日までの間、アドベントカレンダーのように毎日一つずつ窓を開け、お金を入れていく募金箱です。集まった募金は、南スーダンやパングラデシュ、ソマリア等の国々でワールド・ビジョン・ジャパンが行う食糧支援活動に役立てられます。



「何か」はきっとできる」キャンペーン クリスマスまでに、あと3000人の子どもを救いたい

# 「何か」はきっとできる」 キャンペーン

## クリスマスまでに、あと3000人の子どもを救いたい

# 200

2022年 冬号  
ワールド・ビジョンニュース



2019

ソクナちゃん  
(当時10歳)



2022

ソクナちゃん  
(13歳)

# 守りたいのは 子どもたちの夢と未来

2019年、カンボジアの首都プノンペンの川沿いのスラムで、ワールド・ビジョン・ジャパン・スタッフは一人の少女に出会いました。ソクナちゃん、当時10歳。家事に加え野菜売りの仕事に追われ、栄養不良のため病気がちで、学校にはなかなか行けません。ソクナちゃんには夢がありました。お医者さんになって、大好きだったおばあちゃんのような病気の人を治してあげること。

あれから3年。WVJスタッフが会ったソクナちゃんは、学校に休まず通えるようになり、3年前に教えてくれたのと同じ夢に向かって、歩んでいます。

ソクナちゃんの夢を守ったのは、チャイルド・スポンサーシップの支援でした。



ソクナちゃんの詳しいストーリーを読む

ソクナちゃんの夢を守った  
チャイルド・スポンサーシップ P4



表紙の少女、ソリカちゃんのストーリーを読む

夢に向かって懸命にがんばる少女  
ソリカちゃん P5

# ソクナちゃんの夢を守った チャイルド・スポンサーシップ



学校のお友達と一緒に。向かって左から2人目がソクナちゃん

「学校は友だちと会えて勉強ができるから嬉しいの」。輝くような笑顔でそう話してくれるソクナちゃん（13歳）。3年前に比べると背も伸びて、元気そうです。

2019年、ワールド・ビジョン・ジャパンのスタッフが出会った当時、ソクナちゃんは、栄養不良のため風邪をこじらせたり、不衛生な水が原因で下痢をしてしまうことが頻繁にありました。それでも、大切なお母さんや妹のために働くしかないのです。野菜売りは大変な仕事。野菜を入れた重いタライを頭に乘せ野菜市場へ。場所代が払えないソクナちゃんはお店の片隅を借り、しゃがみこんで一人で野菜を売ります。大人たちが行き交う喧騒の中、それだけでも心細いことですが、市場の警備員に追い出されることもありました。しかし、野菜が売れなければ、家族がその日食べるものを買えません。ソクナちゃんは恐怖を押し殺して、別の場所を探しては野菜を売り続けていました。

そんなソクナちゃんのことをお母さんも心配し、そして、大切に想っていました。「ソクナは本当にいい子です。私は子どもの頃学校に行けず、文字も読めなくてつらい思いをしています。ソクナには、ちゃんとした教育を受けさせてやりたいのです」。ソクナちゃんの夢はお医者さんになること。病気で亡くなった大好きだったおばあちゃん。ソクナちゃんはおばあちゃんのマッサージをし、ベッドの周りを掃除していたとお母さんは語ります。「おばあちゃんみたいな病気の人を治してあげたいの」。ソクナちゃんの夢と、想い合う家族の前に、貧困が立ちまわっていました。「本当は学

校に行きたい。仕事には行きたくない」お母さんが悲しむから、と、口に出せない願いを飲み込み、ソクナちゃんはその日も野菜市場に向かっていました。

ソクナちゃんとその夢を救ったのは、チャイルド・スポンサーシップの支援でした。3年前は仕事で学校を休みがちだったソクナちゃんは今、支援で受け取った自転車で、毎日学校に行けるようになりました。ごはんも1日3回食べられるようになり、また、支援の一環として実施されている衛生指導をお母さんが受けたおかげで生活環境も改善しました。「お医者さんになって、おばあちゃんみたいな病気の人を治してあげたい」 厳しい状況でも抱き続けたあの時と同じ「Doctor」の夢に向かって、ソクナちゃんは進んでいます。



学校で授業を受けるソクナちゃん（窓際前から2人目）。好きな科目は「国語」

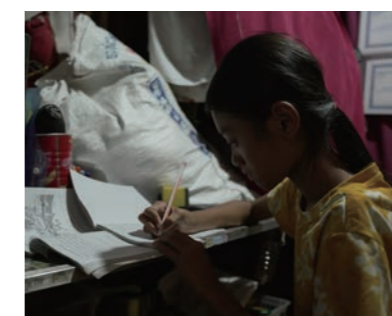
## 夢に向かって懸命に がんばる少女ソリカちゃん



耳が不自由なお父さんのバイクタクシーに付き添い通訳するソリカちゃん



午後、暗くなるまで屋台に立ち、揚げ物などを売ります



夜遅く、家で勉強をするソリカちゃん  
成績はトップクラス

今回、スタッフが出会った少女の一人、ソリカちゃん（12歳）。朝は耳の不自由なお父さんの新聞配達とバイクタクシーの仕事を通訳として付き添って支え、揚げ物などを売る屋台の切り盛りとベビーシッターの仕事もしています。でも、朝7時から正午までの学校の授業には休まず通い、成績はクラスでトップクラスの頑張り屋さんです。朝4時に起きて朝食の準備をし、お父さんの仕事の手伝い、学校、自分の仕事と忙しく1日を過ごし、夕食を食べるのは夜11時ごろになることも。学校には通えているけれど、「疲れて寝てしまうこともあるの」とソリカちゃん。また、最近はその仕事も賃金が減っていることが悩み、と。ソリカちゃんの夢は学校の先生になること。お父さんもそれを願っています。しかし、ソリカちゃんの頑張りだけでは、この夢をいつまでも守ることは厳しいのです。

### 子どもたちが夢に向かって学び続けることができるように カンボジアを訪問した山下スタッフより

「3年ぶりのカンボジアでステキな出会いがありました。当時、市場の片隅で悲しそうな表情で野菜を売っていた女の子ソクナちゃんが、支援を受けて勉強を続け、あの頃と同じ夢に向かって歩いている姿を見ることができました！

そして今回、また新たな出会いがありました。4つの仕事を掛け持ち、耳が不自由な



ソリカちゃんと山下スタッフ

お父さんと支えあって生きるソリカちゃん。別れ際にソリカちゃんとした約束「また会おうね」。ソリカちゃんが勉強を続け、夢に向かって歩いている姿を絶対に見たい！チャイルド・スポンサーシップの支援で、きっと将来その夢をかなえられると信じています」



ソリカちゃんの夢は学校の先生になること

### 「何か」はきっとできる」キャンペーン クリスマスまでに、あと3000人の子どもを救いたい

新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により、2019年以降、貧困に苦しむ子どもの数は新たに1億人増加したと推定されています。しかし、同じ時期に、チャイルド・スポンサーシップの支援により、ソクナちゃんは貧困から抜け出す大きな一歩を踏み出しました。チャイルド・スポンサーシップは、子どもたちが未来を夢見て健やかに成長できるよう、子どもが住む地域全体を継続して支援するプログラム。その原点は、ワールド・ビジョンの創始者ボブ・ピアスが、第2次大戦後、混乱が残る中国で、貧困に苦しむ一人の少女と出会い、「この子」を救おうと手を差し伸べたことにあります。感染症、気候変動、紛争。一人では、「何もかも」はできません。しかし、この子を救いたい、「何か」を始めることが、子どもたちの夢を守り、未来へとつながります。キャンペーンについて、詳細は裏表紙をご覧ください。キャンペーンへの応援をどうぞよろしくお願いいたします。



### 見比べることで成長を実感 チャイルドの成長報告



以前は緊張した表情だったけれど、今回は笑顔かな？ 地域ではどんな活動に参加したのかな？ と、たくさんの方が毎年楽しみにしてくださっているチャイルドの成長報告。QRコードから動画を見ることもでき（※1）、「成長ぶりに私も元気をもらっています」「動画を見て、チャイルドの存在を身近に感じました」など、喜びの声が届いています。

～顔が見える支援～チャイルド・スポンサーシップの魅力をご紹介します！

# チャイルド・スポンサーシップ



チャイルド・スポンサーシップは、貧困など困難な状況にある子どもの健やかな成長のために、子どもを取り巻く環境を改善する長期的な支援です。チャイルド・スポンサーの皆さまには、ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) がご紹介する支援地域の子ども "チャイルド"

と心のつながりを育みながら、支援の成果を実感していただけるよう、様々なコンテンツを通じて支援地域やチャイルドのことをご報告しています。支援による環境の改善が、子どもたちに喜びをもたらすと同時に、その喜びをチャイルド・スポンサーの皆さまと分かち合いたいと心から願っています。

### どんな成果が生まれているの？ 支援地域から届く動画



地域に暮らす人々はどんな想いで活動に取り組んでいるのか、どのような成果が生まれ、子どもたちの生活はどのように変わったのかをお伝えするため、年1回、活動報告の動画をお届けしています（※4）。子どもたちの歌声、ダンス、その地域ならではの美しい自然や動物も見られるかもしれません。



### ご支援者の皆さまへ、感謝を込めて グリーティングカード

12月から翌年1月頃にかけて、支援地からの感謝の気持ちを込めたグリーティングカードをお届けします。国ごとにデザインされたカラフルなカードには、チャイルド一人ひとりによるイラストやメッセージが書かれた活動シートが同封され（※5）、成長報告と同様にチャイルドの成長を感じていただけます。

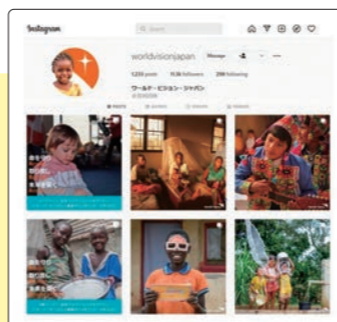
### ご支援者の皆さまのポータルサイト マイワールド・ビジョン



スマートフォンやパソコンで、チャイルドの写真や動画、チャイルドが住む地域の動画をご覧いただけます。最初の写真や動画と見比べてみることで、チャイルドの成長を実感いただけます。そのほか、登録情報や送金方法の確認、変更手続きもマイワールド・ビジョンで行うことができます（※2）。

### 離れていても、あなたを思っているよ 手紙がつなぐ、心の絆

手紙を書いてくださった方には、チャイルドからの返信をお届けします（※3）。郵送のほか、ホームページ上でデザインを選び、好きな写真を添付してEレターを送ることもできます。チャイルドは、どんな人がチャイルド・スポンサーとして自分を応援してくれているのか知りたく願っています。ご自身のこと、日本での生活のことなどを伝えれば、チャイルドとの絆がより深まります。



毎日更新！最新情報はこちら

WVJの公式 SNS



Facebook・Twitter・Instagram・LINE・YouTubeのWVJ公式アカウントでは、最新情報やイベント情報はもちろんのこと、駐在スタッフのランチ事情、出張ごぼれ話、WVJの活動についての熱い想いなどをご紹介しています。ぜひフォローをよろしくお願いします。

### まだまだあります！ そのほか動画コンテンツなど



チャイルド・スポンサーの皆さまが遠くに暮らすチャイルドをより身近に感じ、チャイルドが暮らす支援地域のことをより深く知っていただけたらと願い、他にも様々なコンテンツを発信していきます！例えば、2022年には世界各地の支援地域のあいさつを紹介する動画シリーズをお届けしました。

### 新しくチャイルド・スポンサーになられた方へ



### チャイルド・スポンサーシップへようこそ！ チャイルド・スポンサー・キット

チャイルド・スポンサーになったらどんなことが起こるの？ そんな疑問にお答えするのが、チャイルド・スポンサーになってくださった皆さまにお届けするチャイルド・スポンサー・キットです。ご紹介するチャイルドの情報のほか、サービスの概要をお伝えするリーフレット、手紙の書き方の説明や手軽に送れるレターセットなどを同封し、お送りしています。

### 支援卒業まで支えてくださった方へ



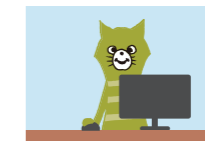
### 心からのありがとう！ 支援卒業を迎える 支援地域から届く動画

チャイルドとのお別れは寂しいものですが、支援卒業を控えた支援地域から届く動画では、チャイルド・スポンサーの皆さまのお力添えで実現することができた、大きな成果をご覧いただけます。子どもたちを取り巻く環境が改善した様子を、現地の人々の声とともにお伝えします。



### 人々が変わり、地域が変わりました 終了報告書

支援の卒業を迎えた地域について、どのような成果を達成できたのか、そして人々や地域がどう変化したのかをお伝えします。教育、生計向上、子どもの保護、保健衛生など、さまざまな分野における支援の成果を、活動の前後の状況を比較しながらご報告します。



### お知らせ

郵送ではお届けすることができない動画などのコンテンツは、チャイルド・スポンサーの皆さまに、メールでお送りしています。ご希望の方は、右のリンクより、メールアドレスの登録、あるいは変更を行ってください。



※1、4 支援地域の状況により動画や写真の撮影が難しい場合がありますので、ご了承ください ※2 初めてご利用される方は、まず手順に沿ってアカウント作成を行ってください ※3 新型コロナウイルス感染症の影響により、現在手紙のお届けには数カ月以上の時間を頂いております ※5 支援地域の状況により活動シートの作成が難しい場合がありますので、ご了承ください

# 114の方がChosen[チョーズン]にご参加くださいました！

Chosen[チョーズン]は、支援地域の子どもたちがスポンサーを選ぶという、まったく新しいチャイルド・スポンサーシップの始め方です。通常のチャイルド・スポンサーシップの支援は、スポンサーとなる方が支援地域や性別などチャイルドを選んで支援することができますが、Chosenは支援地域の子どもたちが自分のスポンサーになる人を選ぶことから支援がスタートします。

ワールド・ビジョン・ジャパンでは、今年7月1～31日、Chosenで始める子ども支援に参加くださる方を募集しました。昨年からはじめ、第2弾となった今年、114の方がご参加くださいました。8月中旬に、カンボジアの子どもたちが今回ご参加くださった皆さまのお写真を見て、自分のチャイルド・スポンサーを選ぶイベントを開催しました。少し緊張した面持ちで真剣に選ぶ子どもたち。Chosenによって、支援を待っていた子どもたちが自分の意思でスポンサーを選ぶ体験をしました。それは子どもたち自身が未来をつかむ、生まれて初めての選択になります。その経験を通して子どもたちは、未来に向かって成長するための大きな力を得ることにつながります。「選ぶ力を子どもたちに。選ばれる喜びをあなたに。」というコンセプトに共感してお申込みくださった皆さま、SNS投稿などで応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。

なお、今回のChosen参加者募集は決まり次第、ホームページ、公式SNSでお知らせします。



じっくりチャイルド・スポンサーを選ぶ子どもたち



Chosenについて  
詳しく知る



## 緊急人道支援の現場から

～ウクライナ危機が、世界の飢餓拡大の一因に～

国連で定められたSDGs(持続可能な開発目標)の2つめには、2030年までに飢餓をゼロに、とあります。しかし、2014年以降減少していた世界の飢餓人口は、再び増加傾向にあります。



栄養不良と診断されたアミナちゃん(ソマリア)

### 飢餓とその要因

飢餓には急性飢餓と慢性的な飢餓がありますが、近年は急性飢餓の拡大が大きな問題となっています。

#### 急性飢餓

紛争や自然災害等、短期間に多くの人が食糧不足に陥る状況。最も深刻なレベルでは、餓死者が出始めて、飢きんが宣言される。

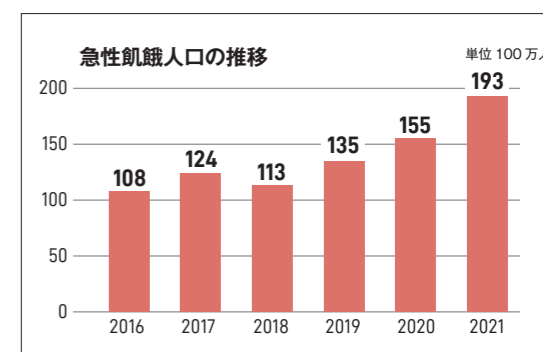
※急性飢餓の指標としては、IPC(総合的食料安全保障レベル分類)のフェーズ3以上の状態を指すことが多い(3:急性食料不安、4:人道的危機、5:飢きん)

#### 慢性飢餓

貧困の蔓延、農業生産性の低さ等で、十分な食事を摂れずに栄養不良に陥る。免疫力の低下ではしかや下痢等、それほど重篤でない病気で命を落とす危険がある。

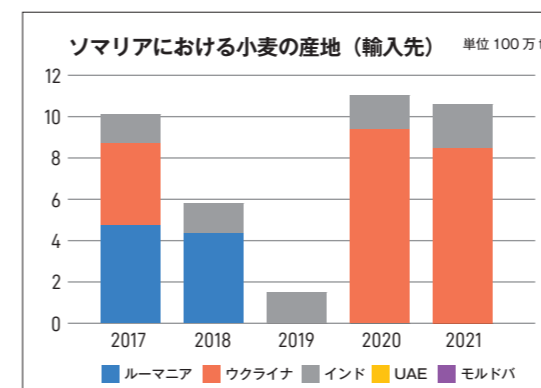
貧困度が高く、慢性的に飢餓に直面する地域で、大雨や干ばつから急性飢餓に陥るといふケースもあり、飢餓の解消には様々な視点での取り組みが必要である。

急性飢餓人口は2021年には1億9300万人を超えていました。その多くはアフリカに集中しています。主な要因は、大雨・干ばつをもたらす気候変動や、紛争による社会や経済の混乱です。アフリカ東部のソマリアでは2020年10月以降、過去40年で最悪と言われる干ばつが続き、2022年2月にウクライナで発生した危機は、世界的な食糧不足を招いています。



出典: 食料安全保障情報ネットワーク (FSIN).  
Global Report on Food Crises 2022

### グローバル化の課題: 遠く離れた地の紛争が、飢餓を引き起こす



出典: TRIDGE 社

東欧のウクライナの危機がなぜ、アフリカの飢餓に影響を及ぼすのか。その理由の一つは、ウクライナが世界でも有数の小麦生産国であり、比較的安価なウクライナ産小麦は、中東やアフリカへ輸出されていることがあげられます。

飢餓に直面する国の一例をご紹介します。ソマリアは長引く紛争による社会の混乱と、干ばつの影響で収穫が乏しく、食料品の多くを輸入に依存しています。主食となるパンの原料となる小麦は、近年はウクライナとインドからの輸入品が多くを占めていました。こうした状況下で2022年2月末にウクライナ危機が発生。ウクライナからの穀物輸出が停滞したことで、ソマリアでは小麦の流通が激減して食料品価格が高騰し、困窮する多くの世帯では、食べ物を購入することが困難な状況にあります。

### ワールド・ビジョンの取り組み

ワールド・ビジョンでは、上記にご紹介したソマリアのように、気候変動や紛争等に起因する急性飢餓に対応するため、国連諸機関と連携した緊急人道支援に取り組みます。穀物や豆類・塩・油等の現物支給、妊産婦や乳幼児向けの栄養補助食、高騰する食料品を購入するための現金やバウチャー(商品引換券)給付等を通じて、今を生き延びる支援を届けます。そして、支援地域における長年の信頼関係のもとに、乳幼児の成長を支える栄養指導、農業技術の指導等、人々の理解を深め行動の変容を促す等、長期的な取り組みで、飢餓全般の解消を目指します。



飢餓に直面する地域に、命をつなぐ食糧を届け、子どもたちの健やかな成長を支え、豊かな未来を築くため、募金にご協力ください！

ワールド・ビジョン クリスマス募金



## ワールド・ビジョン ニュースは200号を迎えました！



創刊号からリニューアルを重ねてきたワールド・ビジョン ニュース

創刊は遡ること34年前、団体が創設された1987年10月から4カ月後の1988年2月になります。記念すべき第1号は、エチオピア飢饉の現状を紹介し、支援を呼びかける内容でした。まだ発行部数が少なく、発送は住所を手書きで対応していたと言われていました。その後、多くの方にご支援いただけるようになり、世界の現状や支援活動をより分かりやすくお伝えできるようフルカラー印刷になり、やがてWEBでの掲載も始まり、現在の発行部数は68,000部にのぼります。これまで支援地域のニーズを伝えるとともに皆さまからのご支援の成果をご紹介します。また、紛争や災害など緊急支援を特集し、厳しい現状に置かれる子どもたちに寄り添い、子どもたちの声を届けてきました。本誌の主旨は、いつも子どもたちであり、それは創刊当初から変わることはありません。そして、200号すべての記事にあふれている「すべての子どもに豊かないのちを」というスタッフの思いは、ご支援者の皆さまにより支えられてきました。これからご支援者の皆さまや新たにワールド・ビジョン・ジャパンを知ってくださる皆さまとの懸け橋として、より良いものを発行していきたいと思っています。

## チャイルド・スポンサーの「マイ・ストーリー」

今回ご紹介するのは、経営コンサルタント臥龍（がりゅう）こと角田識之様のストーリーです。1997年から長きにわたりチャイルド・スポンサーとしてご支援いただいています。これまでに100名以上のチャイルド・スポンサーをご紹介くださり、モンゴルやスリランカの支援地訪問ツアーも企画されています。「子どもは未来からの使者」と語る臥龍様に思いを聞きました。



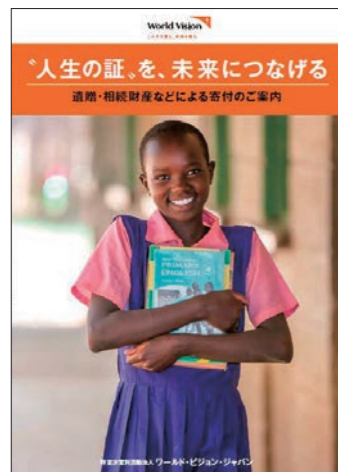
臥龍様と行くモンゴル感動ツアーを企画しチャイルド訪問（2018年）



「1997年、何気なく新聞をめくっていた臥龍は、広告に掲載されていた一人のアフリカの少年と目線が合い、外せなくなりました。その訴えかけている意味は、掲載団体ワールド・ビジョンにコンタクトして知りました。子どもがいなかった我が家、家内と相談し4人の支援から始めました。そして2004年、支援が完了するベトナムを訪問し、支援しているトウイさんの『学校の先生になります』との言葉を聞き、現地訪問の大切さを実感し、インド、モンゴルそしてスリランカへと訪問ツアーを企画させていただき、同行の士の愛、現地スタッフの愛に触れ、本当に多くの感動を戴いています。感謝しかありません」

臥龍様（左端）  
臥龍様と行くスリランカ感動ツアーを企画しチャイルド訪問（2019年）

## “人生の証”を、未来につなげる 遺産や相続財産を寄付する方法があるのをご存じですか？



詳しいパンフレット（無料）もご用意しています

「遺贈」は、遺言によって財産の一部またはすべてを特定の個人や団体に無償で譲渡することです。また、故人のご遺志を受け継いだ相続人が相続財産から寄付することもできます。

ワールド・ビジョン・ジャパンでも、これらのご寄付についてのご相談・お問合せが増えています。「専門家を紹介してほしい」「使途について相談したい」など、ささいなことでも構いませんので、どうぞお気軽にお問合せください。秘密厳守、無料でご相談をお受けしています。

### ご支援者の声

「母は生前、折に触れて『私に何かあったら、遺ったものは好きなように使ってよい』と私に言っていましたので、意義ある活動に使ってもらえるように、ワールド・ビジョン・ジャパンへ寄付することにしました。一人でも多くの子どもたちの未来が、少しでも明るくなるように折っています」(S様／60代女性)

ワールド・ビジョン 遺贈

資料のご請求・お問合せは「遺贈・相続財産による寄付担当」まで

TEL：03-5334-5355（平日 10:00-17:00）  
Eメール：donation@worldvision.or.jp

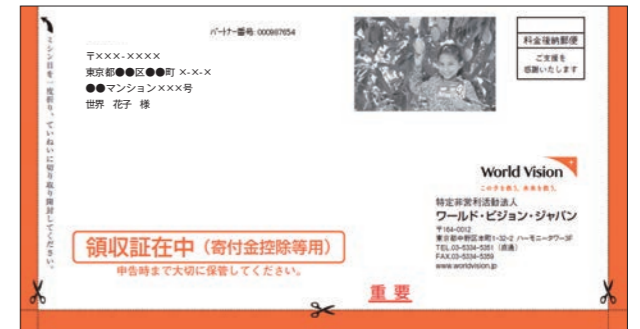
## 領収証 2023年1月20日に発送予定です

2022年1月1日から2022年12月31日までに当団体が受領したご支援金の領収証を発行します。

### 2022年領収証に含まれるご寄付

- クレジットカードのご利用  
JCB、AMEX、ダイナースクラブ：2022年10月末日まで  
VISA、MASTERCARD、セゾンカード：2022年11月末日まで
- コンビニエンスストアからのご送金  
2022年12月10日まで
- 口座振替のご利用  
2022年12月のお引落とし分まで

上記以降の寄付は、翌年の領収証に含まれます。



領収証イメージ

### 寄付金控除は確定申告で

当団体は東京都より「認定NPO法人」として認められており、皆さまからのご支援金は、確定申告によって税制上の優遇措置が受けられ、最大40%が控除されます。

⚠ 年末調整では寄付金控除等を受けることはできません

領収証についてのよくある質問はこちら



## 住所変更 お引越しされた方、ご予約がある方はご連絡ください！

チャイルドからの手紙や成長報告、領収証など、大切な郵送物を確実にお手元にお届けできるよう、登録情報の変更がある方は事務局にご連絡ください。2022年領収証は、12月20日までにご連絡いただいたご住所にお届けします。



「送金履歴の照会」、「登録情報の確認、変更」はマイワールド・ビジョンから行えます



G7サミットを担う外務審議官小野啓一氏（中央）と「G7市民社会コアリション2023」関係者。左から3番目がWVJ事務局長木内

## 世界に思いをはせて

Vol.11. 事務局長 木内(きない) 真理子

来年5月、広島でG7サミットが開催されます。世界にとって意味ある合意が成されるよう、G7と対話を行う様々な関係者グループ（ビジネス、女性、若者など）が立ち上がっています。市民社会グループ（C7）もそのひとつです。C7は、世界の市民社会組織の関心事項を取り上げ、サミットに先駆けてG7議長国（今回は日本政府）に政策提言書を提出します。地域に根差した多様な人や組織とのつながり、革新的なアイデアと実行力、現実に基づく政策提案を行う専門集団として世界の市民社会組織が協働します。今般、日本側C7の共同代表になりました。グローバルとローカルをつなぐ市民の活動を応援いただければ幸いです。

G7市民社会コアリション2023について詳しくはこちら

